

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成31年1月16日

協議会名：粟島浦村地域公共交通協議会

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）									
粟島汽船株式会社	粟島と本土（岩船）を結ぶ唯一の交通手段で、通院や買い物などで利用する島民のほか、公共工事関係者や観光客が主な利用者となっており、閑散期（11/1～4/30）においては1日2便～3便、繁忙期（5/1～10/31）においては1日最大5便の運航をしている。	・安定的な航路を維持するため、運輸局やハローワーク、新潟県内の海事関連学校へ求人を出し、1名を確保した。 ・船員の育成のため海技士資格取得を働きかけた。国の船員計画雇用促進等事業を活用し、講習会へ参加させ、かつ、参考書等の書籍を購入するなどして資格が取得できる環境整備に努めた。 ・今年度も粟島観光協会等と連携し、運賃割引をセットにした「わっぱ煮バック」や「合宿応援プラン」等の商品を開発して観光客等の誘客に取り組んだ。 ・粟島観光協会と共に、観光パンフレットを作成し、県内外の旅行業者等へ配布し宣伝を行った。 ・船舶修繕費を抑えるため、乗組員による整備を行い経費削減に取り組んだ。燃料潤滑油費については、毎月単価入札を実施し、燃料費軽減に努めた。	A （運行回数） <table><tr><td></td><td>計画数</td><td>実績</td></tr><tr><td>高速船</td><td>511</td><td>447.5</td></tr><tr><td>普通船</td><td>518</td><td>440.5</td></tr></table> （就航率） 高速船 87.57%（+4.75%） 普通船 85.04%（-1.49%）		計画数	実績	高速船	511	447.5	普通船	518	440.5	B ・高速船欠航時はフェリーを臨時運航しバックアップ体制を構築するなど、前年から就航率を向上することができ、生活航路として安定的な運航を確保した。 ・誘客策に取り組んだが、繁忙期（特にGW、7～8月）における天候不良や猛暑等の影響を受け、観光客に加え、海水浴・キャンプ客が減少した。 その結果、旅客輸送者数は目標51,138人に対して実績46,812人（▲4,326人）となり、目標を8.5%下回る結果となった。また、前年度実績49,989.5人から▲6.4%（3,177.5人）と減少した。 ・旅客運賃収入は、旅客輸送者数が計画を下回ったことに連動して目標131,430千円に対して実績122,166千円（▲9,264千円）となり、目標を7.1%下回る結果となった。 ・昨年より大規模な公共工事が少なく貨物量・車両数共に減少した。	・今後も安定的な運航を維持するため、船員の確保・育成に努める。 ・観光客等による航路利用者の増加に向けて、県の支援事業を活用するとともに、観光協会等と連携し、島内イベントの開催や自然体験プログラムを組み込んだ企画商品等の取組を実施していく。 ・旅行業者との連携を重視し、平成31年4月に予定している新船就航を契機とした誘客促進に努める。 ・一層の経費削減を行い、欠損額の抑制に努める。
	計画数	実績												
高速船	511	447.5												
普通船	518	440.5												

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成31年1月16日

協議会名：粟島浦村地域公共交通協議会

評価対象事業名：離島航路構造改革補助金（効率化船舶への代替建造）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
栗島汽船株式会社	栗島岩船航路に就航する船舶 （フェリーあわしま）の老朽化 による効率化船舶への代替建造	引き続き、調査事業で把握した 栗島航路の課題を踏まえた航路 経営改善のための施策を検討 し、生活交通確保維持計画（離 島航路確保維持計画）に反映さ せた。また、代替船建造につい ても計画の中で適切に位置づけ た。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。 （H29.10-H30.9） 計画 実績 契約 H29.11 H29.11 起工 H30.7 H30.7 （H30.10-H31.9） 計画 実績 進水 H30.11 H30.11 竣工 H31.3予定 就航 H31.4予定	A 国の構造改革補助を活用す ることで船舶減価償却及び 金利の経費が抑えられると ともに、効率化船舶の就航 により経費削減を図る。	平成31年4月の就航に向けて、 引き続き事業を計画どおり進め る。新船の就航に合わせて関連 自治体及び島民とともに県内外 への情報発信やPRに努め、よ り一層の利用者増に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月16日

協議会名：	栗島浦村地域公共交通協議会
評価対象事業名：	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	栗島航路は、栗島と本土を結ぶ唯一の交通手段であり、極めて公共性が高く、村民の生活安定と経済発展のためには不可欠な航路である。 今後も島民の安心した生活と地域経済の発展を維持していくためには、離島航路の確保・維持・改善が不可欠であり、航路事業者だけでなく、国、新潟県、栗島浦村、周辺自治体などが総合的に連携しながら支援していくことが重要であり、引き続き、本事業を活用しながら、関係者が一体となって、当該航路の確保・維持・改善を図っていく。

粟島航路の状況

1. 輸送実績について

本年度、10～4月累計では対前年同月比▲0.6%（81.5人減）と前年並みで推移していたが、5月のGWは悪天候に見舞われ高速船が欠航し前年同月比▲19.5%（1,213人減）、6月も海水温の上昇により釣果が見込めず釣り客の出入りが少なく▲5.3%（296人減）と減少した。期待した7～8月には台風等による天候不良に加え例年にない猛暑が続き外出を控える傾向となり、海水浴・キャンプ客が減少するなど7月▲16.3%（1,316.5人減）、8月▲6.9%（828人減）となった。9月は「タコ捕り」や「わっぱ煮バック」等のイベントにより+11.8%（557.5人増）となったが、全体として繁忙期での天候不良等の影響を受けるなど輸送人員は46,818人となり、前年度実績から▲6.4%（3,177.5人減）、当初計画人員より▲8.5%下回る結果となった。

【参考：平成30年度輸送実績及び前年度比較表】

平成30年度 (H29.10～H30.9)			前年度比較 (H28.10～H29.9)	
実績	総輸送人員	46,812.0人	6.4%減	3,177.5人減
内訳	高速船	20,679.0人	5.8%減	1,269.5人減
	普通船	26,133.0人	6.8%減	1,908.0人減
計画	総輸送人員	51,138.0人		

※子どもは0.5人で換算

※計画と実績の差は▲4,326.0人

※月別輸送実績は別紙参照

2. 航路損益計算書について

収益は、シーズンの始めである5月のGWに時化に見舞われ、6月の釣り客も伸びず週末の団体客が減少したほか、繁忙期の7～8月には連日の猛暑ため外出を控える傾向が見られ、また台風が接近したことやお盆時期の天候が不安定であったことなどから旅客が大きく減少したため、旅客運賃収入が当初計画131,430千円より9,264千円減少（▲7%）し、122,166千円となった。また、貨物・車両についても公共工事が昨年より小規模だったことで貨物が197.0トン減、車両が596台減となったが、貨物及び自動車航送運賃収入は大型車両の航送増により計画56,595千円に対して6,821千円増加（+12%）となり、63,416千円となった。

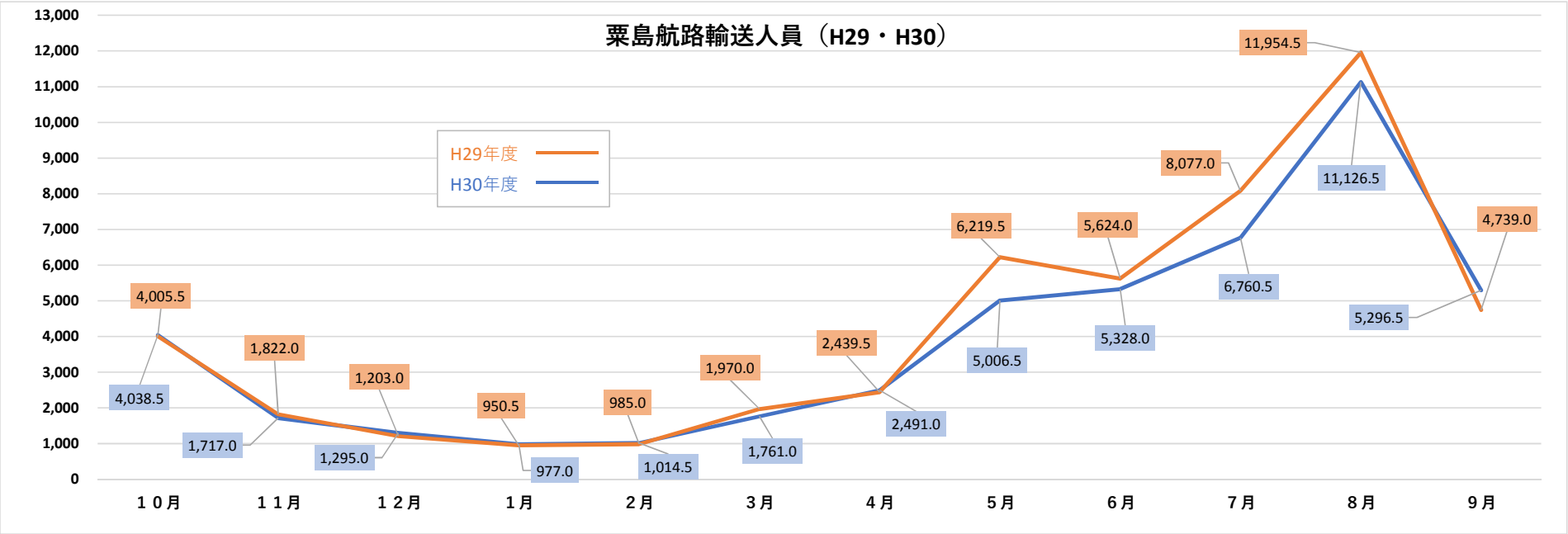
費用は、大半を占める燃料費の値上げで平均単価66.3円となり、前年度平均単価との比較では20.0円の大幅な値上げ、計画単価61円との比較でも5.3円増となり、燃料潤滑油費が計画58,039千円に対し22,740千円増加（+28%）し、80,779千円となったほか、船員費は退職者1名（4月に1人採用）の退職金13,332千円の増加により、計画124,342千円に対して21,721千円増加し、146,063千円となった。また、船舶修繕費は計画70,790千円に対して68,403千円となり、乗組員による修繕により2,387千円を削減することができた。このほか、その他の営業費用は船舶保険料や岩船宿舎の排水設備改修工事分の償却費、航路附属施設費など合計で2,144千円の増加。陸上（店費）については、職員1名の採用や光熱費増加で計1,847千円増となった。

その結果、収益計199,830千円、費用計380,030千円、差引当期純利益▲180,200千円となり、旅客の減少や燃料費の高騰、船費増が大きく影響し、計画より当期純損失が45,911千円増加となった。

【参考：平成30年度航路損益計算及び前年度比較表】

平成30年度 (H29.10～H30.9)				前年度比較 (H28.10～H29.9)	
	実績	計画	計画－実績	実績	
収益計	199,830	201,548	1,718	6.2%減	18,826減
費用計	380,030	341,439	-38,591	15.8%増	51,768増
差引当期純利益	▲180,200	▲139,891	40,309	64.4%増	70,594増

単位：千円



平成30年度													
	平成29年			平成30年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
高速船	2,319.0					121.5	1,647.0	2,724.5	3,034.5	3,594.5	4,497.5	2,740.5	20,679.0
普通船	1,719.5	1,717.0	1,295.0	977.0	1,014.5	1,639.5	844.0	2,282.0	2,293.5	3,166.0	6,629.0	2,556.0	26,133.0
合計	4,038.5	1,717.0	1,295.0	977.0	1,014.5	1,761.0	2,491.0	5,006.5	5,328.0	6,760.5	11,126.5	5,296.5	46,812.0
H29年度との差（人）	33.0	-105.0	92.0	26.5	29.5	-209.0	51.5	-1,213.0	-296.0	-1,316.5	-828.0	557.5	-3,177.5
H29年度との差（率）	100.8%	94.2%	107.6%	102.8%	103.0%	89.4%	102.1%	80.5%	94.7%	83.7%	93.1%	111.8%	93.6%

平成29年度													
	平成28年			平成29年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
高速船	1,939.0					235.0	1,547.0	3,312.0	3,210.0	4,025.5	5,265.5	2,315.5	21,849.5
普通船	2,066.5	1,822.0	1,203.0	950.5	985.0	1,735.0	892.5	2,907.5	2,414.0	4,051.5	6,689.0	2,423.5	28,140.0
合計	4,005.5	1,822.0	1,203.0	950.5	985.0	1,970.0	2,439.5	6,219.5	5,624.0	8,077.0	11,954.5	4,739.0	49,989.5